【報告４】

『今，ここで：社会福祉とソーシャルワークにおけるローカル化』

中国　復旦大学　ソーシャルワーク学部
顧東輝（Dong-hui Gu）

社会福祉（social welfare）とソーシャルワークの概念の起源が西洋の国々であるが，その実践は中国，日本，韓国等を含む多くの国々や地域で行われ発展している．

１　「今，ここで」

「今，ここで」(here and now) はソーシャルワークのポイントである．筆者が 2007 年頃に，先進諸国や地域におけるソーシャルワークに焦点を当て研究を行った結果，以下の 4 点を明らかになった．①中国にとって，ソーシャルワークは外国の経験であり，様々な国や地域の経験をまとめたものである．実際に１つの国家や地域の中でそれらの経験を全体的に反映したことはない．②「今，ここで」の原理を用い，「トップダウン」の方法と「ボトムアップ」の方法で集約したニーズを統合することは，どの国や地域においてもソーシャルワークの発展における基礎となるものである．③１つの国や地域におけるソーシャルワークは，その国や地域の文化，歴史，イデオロギー，社会資源等がソーシャルワークとの間に「インタラクティブ」した結果である．④職業化と専門化は１つの段階であり，異なる主体が異なる段階において異なる役割と位置づけをしている．

「今，ここで」は異なる国や地域における社会福祉の発展においても従うべき原則であろう．

「今，ここで」の意味合いによると，社会福祉とソーシャルワークがその国や地域のローカルな問題やニーズに対応し，ローカルな実情に適応する倫理に依存し，実施可能なローカルな戦術を用い，クライアントとその外に働く環境とのバランスの適応性への調整に協力することが求められる．

２　ローカル化という方向性

社会福祉とソーシャルワークは「今，ここで」の原理を表すために，ローカル化という方向性に注意する必要がある．一方，社会福祉とソーシャルワークにおける西洋諸国の経験が中国に導入された後，中国の特徴に適応することが求められる．他方，社会福祉とソーシャルワークの基本的な枠組みに基づき，中国で既に実践されている経験をまとめ，さらに，その過程を通じて，外国の経験を理解し，学び，考察し，そして統合していく必要がある．

ローカルな環境と外の環境との間の親密さはローカル化における広さ，スピード，深さを決める要素として挙げられる．

３　社会福祉のローカル化

責任，資源，サービスは社会福祉の 3 大要素と言われている．①責任とは，国民に対して誰が責任を負うべきかとのことである．個人の責任なのか，それとも社会の責任なのか．剰余的なのか，それとも制度的なのか．慈善なのか，それとも権利なのか．ニーズのレベル，クライアントの身分，ニーズの起因等は「誰が援助をもらうのか」を決める要素として挙げられる．②資源には，個人の資源，組織資源（ボランティア機関），社会資源（公共資源）が含まれる．個人，家族，コミュニティ，ボランティア組織，企業，政府等が有効な資源の主体であり，貨幣，土地，建物，時間，情報，ヒト等が資源の類型であり，フォーマルな援助であれインフォーマルな援助であれ，いずれも資源供給の重要な形である．社会福祉の最終的な目標は実際には資源分配を目指すものである．③サービスには，供給主体，対象（選択的と普遍的），方式（貨幣，現物，サービス），類型等の要素が含まれる．

社会福祉における外国経験とローカルな情報との統合は，ローカル化に対応する重要な戦術である．人類のニーズに対応するということが社会福祉の出発点である．福祉のモチベーション，社会資源，福祉の歴史，主流となるイデオロギー等はニーズの充足に対する不足の軽減や解決の対策を決める要素として挙げられる．とりわけ，主流となる価値観やイデオロギーの社会福祉の責任に対する認定程度，および資源の豊かさは，1 つの国の福祉モデルと福祉レベルに大きく影響を与えている．

４　ソーシャルワークのローカル化

ソーシャルワークは，対象，主体，目標，技術，倫理等の諸要素を含む体系であり，社会福祉における「サービス」の重要な媒体である．外から伝わってきたソーシャルワークにもローカルな社会サービスにも，要素構造や目標等において，相似するものがあり，外から伝わってきた経験に対するローカル化もローカルな経験の専門化も，いずれも中国におけるソーシャルワークが注目すべき重要な領域である．その基本的な考え方について以下の表で示してみる．

表　中国におけるソーシャルワーク実践のローカル化

SW ローカル化	対象	主体	目標	技術	倫理	社会的認知
外国の経験のローカル化	● 大規模な主体に注目する ● 問題に着目する	● 既存のサービス機関，政府，および事業団体に依存する ● 既存の職員を訓練する	● 任務を遂行することが媒体とする ● 治療の結果を基準とする	● マクロな技術を優先的に使用する ● 実践のプロセスにローカルな技術を融合させ	● 外国の SWer の価値観を参考する ● 伝統的な助け合いの価値観を継承する	● 政府 ● 国民 ● メディア

		● 専属のポストを設置する		る	● 主流となる価値観を統合する	
ローカル経験のグローバル化	● 団体と個人とも対象とする ● サービス対象の個別性にも普遍性にも注目する ● 問題の緩和と解決を目指しながら，ニーズに対応する	● 担い手を育成する ● 専門的な機関を育成する ● 専門協会を頼りにする	● 結果目標と段階目標と融合する ● 治療，予防と発展の３つの目標とも目指す	● マクロな技術もミクロな技術も取り入れる ● 一般的なプロセスに従う ● 評価を重要視する ● 実践の知恵を借りる	● 価値観や倫理を理解する ● 専門的なマニュアルを守る ● 困難を克服することを学ぶ	● 国民 ● 国際

「今，ここで」と「ローカル化」は緊密にかかわっている．異なる国や地域の社会福祉とソーシャルワークの実践は，実際には社会福祉とソーシャルワークの一般経験がその国や地域のなかで具体化されたものである．それぞれの国や地域の実情をよく把握し，外から伝わってきた経験を参考にしながら，ローカルな経験をまとめることが，社会福祉とソーシャルワークの発展における実践的な知恵であろう．中国にとってはそうである．日本と韓国にとっても，きっとそうだろうと思っている．

（翻訳：日本福祉大学大学院，羅佳）